※令和４年度以降入学生用

学校番号	410

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	基礎数学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	数学へのニュープリペア（啓林館）、授業プリント等						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

就職試験などに使用するSPIの数的処理問題や論理的思考力を養うこと､そして日常で使用する数について深く学んでいきます。
また同時に数学Ⅰ、数学Aの範囲の復習なども行っていきます。
数学の得意・不得意に関わらず、根気強く取り組む姿勢が大切です。

２　学習の到達目標

(1)事象を数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けている。
(2)事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察することができる。
(3)数学的に考えることの良さを知り、数学の実用性を認識し積極的に活用しようとする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。数的処理や判断推理、資料解析の方法などの技能を身に付けている。	数的処理や判断推理、資料解析などを通じて事象を数学的に考察する力を養うことができる。数学Ⅰ、数学Aの既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や 他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を養う。	数学的に考えることのよさ、数学の用語や記号のよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを認識し、事象の考察や問題の解決に数学を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	四則演算	分数や小数の計算 四則混合計算 比の計算 連立方程式	a:分数・小数の計算、四則演算や比の計算の問題を処理することができる。 b: 分数・小数の計算、四則演算や比の計算について身近にあるものから理解し、考察することができる。 c: 分数・小数の計算、四則演算や比の計算について興味・関心をもち利用しようとすることできる。	定期考査	定期考査 レポート	授業ノート 提出物 レポート
	割合	百分率の計算 割合の計算 濃度の計算 表の読み取り	a: 百分率の計算、割合の計算や濃度の計算の問題を処理することができる。また表から数を読み取ることができる。 b: 百分率の計算、割合の計算や濃度の計算について身近にあるものから理解し、考察することができる。また読み取った数から表の意図を考察することができる。 c: 百分率の計算、割合の計算や濃度の計算、表の読み取りについて興味・関心をもち利用しようとすることできる。	定期考査	定期考査 レポート	授業ノート 提出物 レポート
2	速さ・時間・距離	時間の範囲 速さ・時間・距離	a:速さ・時間・距離の問題について処理し、計算することが出来る。 b:速さ・時間・距離について理解することができ、身近な事象から考察することができる。 c: 速さ・時間・距離について興味・関心をもち利用しようとすることできる。	定期考査	定期考査 レポート	授業ノート 提出物 レポート

※令和４年度以降入学生用

	集合	和集合 補集合 ド･モルガンの法則	a: 集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができ、共通部分，和集合，補集合を求めることができる。 b: 共通部分，和集合，補集合についてベン図をかき理解し考察することができる。 c: 共通部分，和集合，補集合について興味･関心をもち、集合を考えることで，日常的な事柄などと結びつけることができる。	定期考査	定期考査 レポート	授業ノート 提出物 レポート
3	確率	順列･組み合わせ 確率	a: 順列・組み合わせ・確率の用語を理解し、問題を処理することができる。 b: 順列・組み合わせ・確率について身近な事象から結びつけ、考察することができる。 c: 順列・組み合わせ・確率について興味･関心をもち利用することができる。	定期考査	定期考査 レポート	授業ノート 提出物 レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度